

日本気象学会

昭和63年度秋季大会

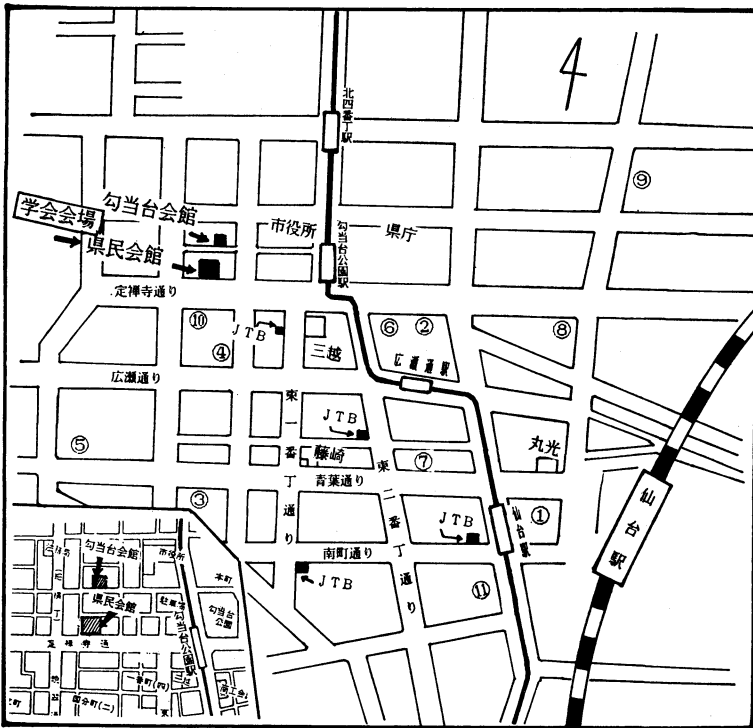
会期：昭和63年10月26日（水），27日（木），28日（金）

会場：宮城県民会館 仙台市国分町3丁目3-7（電話 022-225-8641）

目次

会場案内	579
大会行事予定表	580
研究発表内容一覧表	581
シンポジウム内容	582
研究発表題目	583~591

会場案内図



大会行事予定

1. 会場：宮城県民会館（電話 022-225-8641）
 - A会場：6階大会議室
 - B会場：6階中会議室
 - C会場：3階特別会議室
 - ポスター・セッション：5階展示室
2. 会期：10月26日（水）、27日（木）、28日（金）

行事			
大会（研究発表）	（A, B, C会場）	10月26日（水）	9:00~12:00 13:00~16:00
大会（ポスター・セッション概要紹介）	（A会場）		16:15~16:35
大会（ポスター・セッション）	（5階展示室）		16:35~17:30
大会（研究発表）	（A, B, C会場）	10月27日（木）	9:00~12:00
山本賞・堀内基金奨励賞授与・日本気象学会奨励金贈呈	（A会場）		13:00~13:30
学会賞・山本賞・堀内基金奨励賞受賞記念講演	（A会場）		13:30~15:00
シンポジウム	（A会場）		15:30~17:30
懇親会	（勾当台会館）		18:00~20:00
大会（研究発表）	（A, B, C会場）	10月28日（金）	9:00~12:00 13:00~17:00

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

昭和63年度秋季大会

() 講演番号, — : 座長

	A 会 場	B 会 場	C 会 場	
10月26日 (水)	9:00~ 12:00	梅雨・総観規模現象 (A101~A116) —加藤内蔵進—	熱帯気象・台風 (B101~B115) —新田 勲—	エアロゾル (C101~C117) —谷口 恭—
	13:00~ 16:00	総観・中小規模現象 (A151~A165) —工藤達也—	気候 (B151~B165) —児玉安正—	放射・大気電気 (C151~C160) —浅野正二— 気象力学 (C161~C165) —余田成男—
	16:15~ 17:30	ポスター・セッション (A会場で概要紹介後, 5階展示室で講演)		(P101~P110)
10月27日 (木)	9:00~ 12:00	大気大循環 (A201~A216) —重久陽亮—	接地境界層・エクマン境界層 (B201~B214) —佐藤 威—	観測・解析・数値計算手法 (C201~C216) —深尾昌一郎—
	13:00~ 13:30	山本賞・堀内基金奨励賞授与・日本気象学会奨励金贈呈		
	13:30~ 15:00	学会賞・山本賞・堀内基金奨励賞受賞記念講演		
	15:30~ 17:30	シンポジウム		
10月28日 (金)	9:00~ 12:00	地表面・大気相互作用Ⅰ (A301~A309) —近藤純正— (A310~A317) —増田耕—	局地循環・大気汚染 (B301~B314) —渡辺 明—	中層大気 (C301~C312) —岩崎俊樹—
	13:00~ 17:00	地表面・大気相互作用Ⅱ (A351~A361) —井上君夫— (A362~A367) —木村竜治—	雲物理・積雲対流 (B351~B369) —赤枝健治—	大気化学 (C351~C359) —岩坂泰信— (C360~C370) —佐々木 徹—

注) 大会参加費 会員 1,000円, 学生会員 500円, 一般 1,500円

講演発表者へのお知らせ

1. A, B, C会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演時間は質疑を含めて12分以内です。スライド標準枚数は6~8枚です。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下をそろえて下さい。
4. ポスター・セッションの方法については「天気」5月号 (p.344) を参照して下さい。
またポスターに表題と発表者名を明記して下さい。

シンポジウム「雲と放射」

1. 日 時 大会第2日 (10月27日) 15:30~17:30
2. 会 場 A会場 (6階大会議室)
3. 座 長 松野太郎 (東大・理)
4. 話題提供者
 - 田中正之 (東北大・理): 雲の放射特性
 - 時岡達志 (気研): GCM における雲の取り扱い
 - 高橋 劭 (九大・理): 雲の維持と降水のメカニズム
 最後に総合討論を行う

研究会のお知らせ

大会に合わせて下記の研究会が行われます。興味のある方はご自由にご参加下さい。

1. 金星大気力学サブワーキンググループ第3回会合
 - 日 時: 10月26日 17:30~18:30
 - 会 場: C会場
 - テーマ: 1. PLANET-B 金星気球計画の現状 (報告)
 - 2. COSPAR 総会と諸外国の動向 (報告)
 - 3. 国内研究体制と国際協力のあり方 (討論)
 - 4. その他 (報告または討論)

問合せ先: 〒753 山口市大字吉田 1677-1

山口大学教育学部 山中大学

(電話 0839-22-6111 内線 697)

講演企画委員会からのお知らせ——講演番号のつけ方および会場名の変更

大会の講演番号について、「講演の日時 (何日の何番めか) がすぐに分かるようなつけ方がよい」との意見がありました。講演企画委員会では、検討の結果、今大会から講演番号を4桁の英数字で表す方法に改めることにしました。

- 1桁め……会場を表す。従来の第1~3会場に代えてA~Cの記号を用いる。ポスター発表は従来どおりPで表す。
- 2桁め……日を表す。
- 3, 4桁め……講演を表す。午前の口頭発表とポスター発表は01から、午後の口頭発表は51から始める。

例: A102……A会場, 1日め午前, 2番め

C367……C会場, 3日め午後, 17番め

P105……ポスター, 1日め, 5番め

なお、ポスター・セッションの概要紹介は、なるべく多くの方が参加できるように、A会場に統一して行います。

講演企画委員会

研究発表題目

大会第1日(10月26日) 9時00分~12時00分

A会場 梅雨・総観規模現象

座長 加藤内蔵進

- A 101. 児玉安正(弘前大・理): 梅雨前線帯と他の前線帯との比較(その2)
- A 102. 秋山孝子(気研・予報): 梅雨前線上の擾乱の卓越周期
- A 103. *東 善広・加藤内蔵進(名大・水圏研): 梅雨前線帯の雲・降水分布の変動に関する研究
- A 104. 吉住禎夫(気研・予報): 梅雨前線上に発達した線状中規模降水域
- A 105. 岩崎博之(名大・水圏研): 梅雨期の中間規模雲塊の研究
- A 106. 青梨和正(気研・予報): '88年5月3日九州で発生したクラウドクラスタの解析
- A 107. 高橋正明(九大・理): 梅雨前線に伴う下層 jet の力学モデルII
- A 108. 吉崎正憲(東大・海洋研): 安定成層をした回転流体中での局在した熱源に対する2次元線型応答問題
- A 109. *多田英夫・吉崎正憲・浅井富雄(東大・海洋研): 梅雨期に見られるメソ α 擾乱の解析(1)——1987年7月降雨の総観的特徴——
- A 110. *多田英夫・吉崎正憲・浅井富雄(東大・海洋研): 梅雨期に見られるメソ α 擾乱の解析(2)——大気中の非断熱加熱と下層ジェット生成——
- A 111. *永田 雅・小倉義光(イリノイ大): 1982年長崎豪雨の予報実験
- A 112. 張 泉湧・吉崎正憲(東大・海洋研): 沖縄付近に発生したスコールラインの数値シミュレーション
- A 113. *下川信也・田中 浩(名大・水圏研): 梅雨前線上のメソ α 擾乱の形成についての数値実験
- A 114. 平沢正信(気研・予報): 梅雨前線帯上の中間規模擾乱と降水系の数値実験(続)
- A 115. *栢原孝浩・岡本寿夫・瓜生道也(九大・理): FGGE データにおける相関次元と最大リアップノフ指数
- A 116. *渡辺 明(福島大・教育), 住 明正・吉沢宣

之(東大・理): MU レーダーで測定された対流圏の風速について

B会場 熱帯気象・台風

座長 新田 勲

- B 101. *新田 勲・山田真吾(気象庁・長期予報): 熱帯域海面水温の昇温化と大気循環への影響
- B 102. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): 成層圏赤道波強度の経年変化(1961-1987 シンガポール)
- B 103. *謝 尚平・久保川 厚・花輪公雄(東北大・理): 二つの正の feed back 機構を含む ENSO サイクル
- B 104. SANGA-NGOIE KAZADI(京大・理): On the annual march and interannual variability of the tropical wind field
- B 105. 松本 淳(東大・地理): 1987年夏のモンスーン季バングラデシュにおける洪水と豪雨について
- B 106. 松本 淳(東大・地理): インドのモンスーン明けについて
- B 107. 西 憲敬(京大・理・気候): OLR データにみられる季節内変動
- B 108. 矢野順一(京大・理): 熱帯大気時間変動のフラクタル解析
- B 109. *尾瀬智昭・鬼頭昭雄(気研・気候): 気象研 GCM 実験に見られた季節内変動
- B 110. *森 一正・丸山健人・萩野谷成徳・藤谷徳之助(気研): 中部赤道太平洋域における低緯度総観解析の試み——1987年11, 12月望星丸II世データを利用して——
- B 111. *高藪 縁(国立公害研), 村上勝人(気研・台風): GMS 赤外ヒストグラムデータを用いた熱帯域雲クラスターの解析(II)
- B 112. 藤井 健(京産大・教養): 台風域内の強風と周辺地形との関係について
- B 113. 石島 英(琉大短): 台風渦移動に関する数値実験
- B 114. *近藤洋輝・山坪正紀(気研): 対流に対する一般流の鉛直シアの効果
- B 115. 中島健介(東大・理): 回転場における雲対流

の組織化の数値実験(その2)

C会場 エアロゾル

座長 谷口 恭

- C 101. *金森 悟・金森暢子・伊佐恵理子(名大・水圏研), 西川雅高(国立公害研): 大気エアロゾル中の重金属元素の存在状態とその起源
- C 102. *西川雅高・安部喜也(国立公害研), 金森 悟・金森暢子(名大・水圏研): 降雨前後における大気エアロゾル中の微量元素の形態別濃度変動
- C 103. 李 東仁(北大・環境), 谷口 恭・菊地勝弘(北大・理): 風向別に見た札幌市およびその上空におけるエアロゾルの化学成分の特徴(4)
- C 104. 銭 公望・石坂 隆・田中 浩(名大・水圏研): 複合薄膜法によるサルフェイト及びナイトレート粒子の同時検出法
- C 105. *古賀聖治・大和政彦・田中 浩(名大・水圏研): ジメチルサルファイドおよびメタンスルホン酸の大気化学的挙動
- C 106. 石坂 隆(名大・水圏研): 汚染物質の雲粒核濃度に与える影響
- C 107. 板部敏和(通信総研): GLOBE 計画について
- C 108. *山崎孝治・岡田菊夫(気研): 昭和基地上空エアロゾルはどこから来たのか?
- C 109. 岩坂泰信・*林 政彦(名大・水圏研): 重力沈

降性粒子による成層圏から対流圏への物質輸送——極・冬の成層圏粒子による可能性——

- C 110. 大和政彦(名大・水圏研): トロポポーズフォールディングを通過して対流圏に輸送される成層圏エアロゾル——成層圏気塊のトレーサー物質として——
- C 111. *岩坂泰信・今須良一(名大・水圏研): 成層圏エアロゾルの偏光解消度の長期変化
- C 112. 古賀聖治・大畑哲夫・田中 浩(名大・水圏研): 西崑崙地域におけるエアロゾル粒子
- C 113. 村山信彦(気象衛星センター): 1982~83年のオーストラリア干魃に起因するダスト雲
- C 114. 村山信彦(気象衛星センター): 1988年4月の黄砂の発生輸送の気象解析
- C 115. 荒生公雄(長崎大・教育): 長崎における1988年4月の黄砂現象
- C 116. *甲斐憲次・二階堂義信・内野 修・田端 功(気研): 黄砂のライダー観測(4)——数値シミュレーションとの比較——
- C 117. *麻生 正・徳野正己・木川誠一郎(気象衛星センター), 中村 一(気象庁・数値予報), 大窪 浩(札幌管区): 「煙」の観測Ⅱ 今夏7月下旬に発生した沿海州の山林火災からの煙

大会第1日(10月26日)13時00分~16時00分

A会場 総観・中小規模現象

座長 工藤 達也

- A 151. 安久津俊幸(仙台管区): 東北地方の積雪・降雪について
- A 152. *田頭正廣(盛岡地台), 竹川元章(秋田地台): 秋田県の大雪の地域特性
- A 153. 鈴木和明(仙台管区): 青森県の降雪量の予測について
- A 154. 八巻陸夫(福島地台): 会津大雪の際の降雪量分布の特徴——日降雪量と下層風の関係——
- A 155. 大野木和敏(仙台管区): 冬型気圧配置における福島県の日照分布
- A 156. 孫 沈清(中国新疆气象台, 東大・理): 新疆の寒波の特徴と寒気の径路
- A 157. 田中輝彦・*大坪芳次(電源開発研), 大窪寛和

(研技術総研), 馬場邦彦・長谷美達雄・村上真史(研システム・クラフト): 予想天気図を利用した送電線着雪予測システムについて

- A 158. 猪川元興・永沢義嗣(気研・予報): 春季網走・雄武地方でみられる“晴天”フェーン現象 2次元数値実験
- A 159. 大窪寛和(研技術総研), *馬場邦彦・長谷美達雄・村上真史(研システム・クラフト): 南岸低気圧による関東地方南部の降雪解析
- A 160. 三角幸夫(気研・予報): 1986年1月8日仙台で観測された雷雲の解析
- A 161. *坪木和久・藤吉康志・若濱五郎(北大・低温研): 先駆寒冷前線と寒冷前線の間に発達したWavelike Bands
- A 162. *藤吉康志・坪木和久・佐藤晋介・若濱五郎(北

大・低温研): 地形性筋雲の三次元レーダエコー構造

- A 163. 二宮洸三 (新潟地台): 1986/87年冬期の polar/comma-cloud low (I)
- A 164. 二宮洸三 (新潟地台): 1986/87年冬期の polar/comma-cloud low (II)
- A 165. 麻生 正 (気象衛星センター): 衛星雲画像に現れた大気波動. I. 弱い寒気移流雲上の暗縞

B会場 気 候

座長 児 玉 安 正

- B 151. 佐橋 謙 (岡山大・教育): 古文書収蔵庫の湿度環境
- B 152. 久保田 効 (気研・予報): 地球放射束(OLR)の極小帯と海面温度極大帯の位置の一致について
- B 153. 菊地時夫 (高知大・理), 山内 恭・清水正修 (極地研), 佐藤和秀 (長岡高専): 衛星から見た南極氷床の年平均表面温度
- B 154. 田口彰一 (公害資源研): 総観規模擾乱の個数の経年変化
- B 155. *山川修治・田 少奮 (筑波大・地球科学): ENSO 現象と東アジアの気圧配置の関係
- B 156. *田 少奮・安成哲三 (筑波大・地球科学): 回転 EOF による北半球気圧場にみられる QBO の研究
- B 157. *宮崎保彦・新田 効 (気象庁・長期予報): 1月の日本の月平均気温と全球海面水温
- B 158. *立花義裕 (北大・低温研), 松本善之 (北大・理), 若濱五郎 (北大・低温研): 日本の降雪・海氷面積・熱帯の海水温相互のテレコネクションについて
- B 159. *山元龍三郎・岩嶋樹也 (京大・理・気候), 星合 誠 (愛知学院大・教養): 海面水温の永年変動(第2報)——COADS の誤差の算定(統)——
- B 160. *畑澤宏善・岩嶋樹也・山元龍三郎 (京大・理・気候): 最近100年間の気候変動における内因と外因
- B 161. 大井正一: 明治時代の山の気象 (山の気象史その二)
- B 162. 水越允治 (三重大・人文): 18世紀末より19世紀前半にかけて近畿・東海地方に襲来した台風
- B 163. *三上岳彦・鄭 貞實 (都立大・理): 歴史時代

の天候データにもとづく東アジアの乾湿分布図の復元

- B 164. *福山 薫 (三重大), 山本淳之 (大阪電通大), 柏谷健二 (神戸大): 各種堆積物資料に見られる古気候永年振動の比較
- B 165. 森山 茂 (日大・生産工): 生命の存在と地球環境の homeostasis

C会場 放射・大気電気

座長 浅 野 正 二

- C 151. 児玉裕二 (北大・低温研): 融雪面の放射特性
- C 152. *内山明博・浅野正二 (気研・気候): Line by Line 法による透過率, 放射冷却率の計算法について
- C 153. *早坂忠裕・中島映至・田中正之 (東北大・理): エアロゾルの光学的特性に及ぼす煤 (Soot) の影響について
- C 154. *塩原匡貴・真野裕三・浅野正二・内山明博 (気研・気候): 好晴積雲の雲量と反射率——1987年9月の航空機観測——
- C 155. 小林隆久 (気研・応用): 有限雲場の短波長放射特性(2)——地表面反射の影響——
- C 156. 真野裕三 (気研・気候): 水平方向に非一様な雲の放射場について
- C 157. 斎藤和雄 (気研・予報): 診断式による雲量のモデル面への割り振りについて
- C 158. *吉田作松・菊地原英和 (気象協会・研): 日積算全天日射量の直散分離
- C 159. 道本光一郎 (防大・地学): 小松周辺の冬季雷に関する一考察 (-10°C 高度と発雷の関係)
- C 160. 道本光一郎 (防大・地学): レーダーエコーによる小松周辺の一発雷 (いっばつらい)

気象力学

座長 余 田 成 男

- C 161. *宇加治一雄・玉木克美 (福岡大・理): 回転水槽実験の数値シミュレーション (II)
- C 162. *玉木克美・宇加治一雄 (福岡大・理): 回転水槽の実験で観測される tilted-trough vacillation (第2報)
- C 163. *加藤輝之 (気象庁・海上気象), 松田佳久 (気大): 回転球面上での大気移動熱源に対する線型応答
- C 164. *小出 孝 (気研・応用), R. Sadourny (LMD, Paris): 減衰する発散性2次元乱流の数値実験

- C 165. 野田 彰 (気研・気候): 変分原理と運動方程式の近似

大会第1日 (10月26日) 16時15分～16時35分

A会場 ポスター・セッション概要紹介

座長 甲 斐 憲 次

- P 101. 千葉 長・二階堂義信 (気研), 山田真吾 (気象庁・長期予報): 熱帯域における季節内変動のモデルと実際の比較
- P 102. 二階堂義信 (気研・予報): 夏半球に見られるパロトロピックな構造を持つ亜熱帯高気圧の特徴
- P 103. 井上豊志郎 (気研・台風): 熱帯太平洋における海面水温と雲型別雲分布——Split Window データによる1987年1月～2月の解析——
- P 104. *中村健治・岡本謙一 (通信総研): 熱帯降雨観測衛星 (TRMM) 用降雨レーダ
- P 105. *杉本伸夫・笹野泰弘・中根英昭・林田佐智子・

松井一郎・湊 淳 (国立公害研): 成層圏・対流圏オゾン観測用多波長レーザーレーダー: その1 成層圏オゾンの測定精度の評価

- P 106. 田平 誠 (愛知教育大): 発達した対流雲に伴って観測されたインフラソニック波
- P 107. *高橋俊二・木村富士男 (気研・応用): 局地風モデルへの植生の導入
- P 108. 藤部文昭 (気研・予報): 本州中部における“ひと雨”の降水量分布
- P 109. *木村富士男・高橋俊二 (気研・応用), 高橋一郎・並木 裕 (大成建設): 大都市の夏の気温への土地利用・人工熱の効果
- P 110. 矢内秋生 (目白学園女子短大・生活科学): 日本海沿岸地域の波と風の呼称

大会第2日 (10月27日) 9時00分～12時00分

A会場 大気大循環

座長 重 久 陽 亮

- A 201. 内藤勲夫 (国立天文台): 大気・地球系の角運動量収支 (1) 背景, モデル及びデータ
- A 202. *菊地直吉・内藤勲夫 (国立天文台): 大気・地球系の角運動量収支 (2) AAM 関数の性質
- A 203. *内藤勲夫・菊地直吉 (国立天文台): 大気・地球系の角運動量収支 (3) 天文観測値との比較と議論
- A 204. *小野寺栄喜・内藤勲夫 (国立天文台): 気候変動と自転速度変動の関係 コメント
- A 205. 佐藤康雄 (気研・気候): 北半球冬期対流圏大気の低周波変動の研究——帯状平均場の特徴——
- A 206. *木本昌秀 (気象庁・数値予報), 岸保勘三郎: 北半球冬季 EOF のリーディングモード
- A 207. 塩谷雅人 (京大・理): 南半球対流圏における長周期変動と赤道域における季節内変動との関連
- A 208. 岩崎俊樹 (気象庁・数値予報): 特殊な鉛直座標による Transformed Eulerian Mean I. 定式化
- A 209. 岩崎俊樹 (気象庁・数値予報): 特殊な鉛直座

標による Transformed Eulerian Mean II. 大気大循環モデルの診断

- A 210. 千葉 長・柴田清孝・小寺邦彦 (気研・気候): 系統誤差に関連したいくつかの数値実験
- A 211. *杉 正人・岩崎俊樹 (気象庁・数値予報): 気象庁全球モデルの系統誤差について (その1)
- A 212. 工藤達也 (仙台管区): 冬期の全球モデル (JMA モデル) における系統誤差と山岳波の三次元線形解から求めた摩擦効果の関係について
- A 213. 沼口 敦 (東大・理): 水惑星モデルの降水のふるまいの積雲パラメタリゼーション依存性
- A 214. 鬼頭昭雄 (気研・気候): SSTA 実験における Zonal/eddy 関係と降水量
- A 215. *岩嶋樹也・山元龍三郎 (京大・理・気候): 時間・空間スペクトル法による低次大気-海洋結合モデル——多重解と気候ジャンプ? ——
- A 216. *柴田清孝・千葉 長 (気研・気候): 南極の気象の数値実験 (I)

B会場 接地境界層・エクマン境界層

座長 佐 藤 威

- B 201. *堀 晃浩・伊藤昭三 (大阪府大・工): 地形に

よって起る乱れとスペクトルの変化

- B 202. *加藤真規子・萩野谷成徳(気研・物理), 花房龍男(札幌管区): 複雑地形上における気流の特性——風洞実験と現地観測との比較——
- B 203. 野中善政(宮崎大・教育): 複雑地形における大気乱流境界層の有限要素モデル——対数一次要素の導入——
- B 204. 松岡春樹: 接地層乱流熱フラックス項と省略項とのオーダー比較
- B 205. 蒲生 稔(公害資源研): 関東平野の混合層(その6)
- B 206. 蒲生 稔(公害資源研): 混合層上部に出現する積雲(その4)
- B 207. *鈴木 靖・木村竜治(東大・海洋研): 対流混合層内のサーマルによる渦粘性効果
- B 208. *佐橋 謙・大重義法(岡山大・教育): 係留気球による鉛直分布の観測値に対する時刻補正について
- B 209. *岩谷祥美(日大・生産工), 塚本 修・大滝英治(岡山大・教養), 光田 寧(京大・防災研): 長大棧橋を用いた海上風の乱流構造の観測
- B 210. *塚本 修・大滝英治(岡山大・教養), 石田廣史(神戸商船大), 堀口光章・光田 寧(京大・防災研): 本州南方海域での乱流輸送量の測定
- B 211. 浅井富雄・*中村晃三・石川浩治・三沢信彦・鈴木 靖・浦野 明(東大・海洋研): 海洋上の雲を含む大気境界層の観測
- B 212. *石田廣史(神戸商船大), 光田 寧(京大・防災研): 海上風速と気温の中規模変動と大気状態
- B 213. 藤原滋水・木村竜治(東大・海洋研): 济州島風下のカルマン渦列の発生及び消滅過程
- B 214. *土屋 清(千葉大・映像隔測センター), 徳野正己(気象衛星センター): 衛星画像によるカルマン渦の解析
- C会場 観測・解析・数値計算法**
- 座長 深 尾 昌一郎
- C 201. *八木鶴平・真木雅之・中井専人(国立防災センター): 国立防災センターのドップラーレーダの概要
- C 202. *真木雅之・中井専人・八木鶴平(国立防災センター): ドップラーレーダの高速スキャンに伴う誤差の推定
- C 203. *青柳二郎・鈴木 修・横山辰夫(気研・衛星観測): ドップラークラッタ除去装置の試作
- C 204. 中村健治(通信総研): 上空からのレーダ降雨観測におけるビーム充填率の影響
- C 205. *永井智広・上田真也・松浦和夫・葦澤 浩・鯉沼正一(気研・衛星観測): UHF帯ウインドプロファイラーレーダーを用いた対流圏風ベクトル観測
- C 206. *増田悦久・高橋耕三(通信総研), 津田敏隆・高見友幸・佐藤 亨・深尾昌一郎・加藤 進(京大・超高層): RASS の測定高度限界と風・気温高度分布の影響
- C 207. 山本秀喜・阿保 真・*長澤親生・金木利之(都立大・工), 内野 修(気研・衛星観測): 気象観測用パルス変調半導体レーザーレーダー
- C 208. *内野 修・田端 功・甲斐憲次(気研・衛星観測), 高島英之(筑波大): マルチカラーライダーによる気温計測(II)
- C 209. *富樫正明・原島 治(宇宙開発事業団): GMS-2 の放射冷却器汚染除去機能について
- C 210. *高山陽三・高島 勉(気研・衛星観測): 海面表皮温度の観測
- C 211. 高山陽三(気研・衛星観測): 衛星赤外面温度測定波長帯
- C 212. *浅野和俊・東山禎夫(山形大・工), 渋谷 章(光進電気): かご型イオン風速計の出力特性
- C 213. 里村雄彦(気研・応用): 曲線座標を用いた数値モデル(I)序報
- C 214. SANGA-N. KAZADI(京大・理): A simple method for quantitative estimation of objective analysis errors
- C 215. 飯田茂隆(竹中工務店・技研): 九州地方の冬季最低気温の予測について
- C 216. *野本眞一(電通大), 近野好文・森本陸世(気象協会・研): 相関法による量的延長予測法の作成

大会第3日(10月28日) 9時00分~12時00分

A会場 地表面・大気相互作用 I

座長 近藤 純正

- A 301. *鳥羽良明(東北大・理), 飯田記子(学術情報センター), 川村 宏・江淵直人(東北大・理), I.S.F. Jones(シドニー大): Air-sea fluxes の風波依存性の問題
- A 302. 藤谷徳之助・萩野谷成徳(気研): 熱帯域における大気境界層の観測(2)
- A 303. *大滝英治・塚本 修(岡山大), 石田廣史(神戸商船大), 堀口光章(京大・防災研): 海面での二酸化炭素の乱流輸送(2)
- A 304. *岩坂直人・花輪公雄(東北大・理): COADS を用いた海面フラックスの評価
- A 305. 萩野谷成徳(気研・物理): 太平洋熱帯域における広域海面熱収支解析
- A 306. *花輪公雄・吉川泰司(東北大・理): 北太平洋の SST 変動と海面風応力との関係
- A 307. *渡邊朝生・花輪公雄・岩坂直人(東北大・理): 西部北太平洋海面水温変動の季節依存性と ENSO
- A 308. 鬼頭昭雄(気研・気候): 日本の気温と全球海面水温の関係
- A 309. 時岡達志・遠藤昌宏・長井嗣信(気研): 大気・太平洋結合モデルの振舞い: 海面熱収支の解析

座長 増田 耕一

- A 310. *内藤玄一・八木鶴平(国立防災センター), 佐々木保徳・浅沼市男(海洋センター): 海氷上での大気乱流の観測(5)
- A 311. 高橋修平(北見工大): 南極氷床上の地吹雪の収束・発散と表面堆積
- A 312. 大畑哲夫(名大・水圏研): 雪氷面と雲との間の多重反射が雪氷域の日射量に与える影響
- A 313. 山内 恭(極地研): 南極沿岸域における雪・海氷アルベドの変化(ACR)
- A 314. 増田耕一(東大・理), 森永由紀(筑波大・地球科学), 沼口 敦・大内彩子(東大・理): 北半球積雪被覆の季節変化
- A 315. 岩崎友彦(京大・理): 北半球積雪被覆変動

- A 316. *小寺邦彦・千葉 長(気研・気候): シベリアの残雪と東アジア夏の循環
- A 317. *安成哲三(筑波大・地球科学), 鬼頭昭雄・時岡達志(気研・気候): ユーラシア大陸の積雪が北半球夏の気候に及ぼす影響——MRI・GCM の12年 RUN による解析——

B会場 局地循環・大気汚染

座長 渡辺 明

- B 301. 光本茂記(国立公害研): 斜面風(流)の室内実験
- B 302. 近藤裕昭(公害資源研), 新野 宏(ケンブリッジ大): 非線型海陸風数値モデルにおける熱的不安定性について
- B 303. *高橋俊二・木村富士男(気研・応用): 局地風モデルの non-hydro version の作成
- B 304. 水間満郎(京大・原子炉): スペクトル法による海陸風数値モデルの構築(II)
- B 305. 吉崎正憲(東大・海洋研): 弾性方程式系の非静水圧対流モデルによる山谷風・海陸風の数値実験
- B 306. *伊藤久徳・杉村秀二(和歌山大・教育): 大洋風と湾風の相互作用に関する数値実験
- B 307. 山澤弘実(原研): 3次元数値モデルを用いた海風の計算(風速場の再現性)
- B 308. *一ノ瀬俊明・松尾友矩(東大・工): 東京湾埋立計画の大気環境アセスメント——出現風系の統計学的予測
- B 309. 渡辺 明(福島大・教育): 猪苗代湖北岸の平均的局地循環の立体構造
- B 310. *吉門 洋・近藤裕昭(公害資源研): 海風の内陸進入に対する東京のヒート・アイランドの影響
- B 311. *大本隆太郎(北大・環境), 上田 博・菊地勝弘(北大・理): ドップラーソーダーでみた札幌市の下層大気の構造: 冬季, 夜間の冷気流について
- B 312. *竹内義治・安達隆史(気象協会・研): 関西地域における大気中浮遊物質の広域輸送特性
- B 313. 岡本眞一(東京情報大), 小林恵三(産業公害

防止協会), *片谷教孝(富士通エフ・アイ・ビー(株)), 村尾直人(北大・工): 長距離輸送モデルのための流跡線の計算方法

- B 314. 吉川友章・八木正允・木村富士男・小出 孝・成瀬 弘・岡田菊夫・高橋俊二・佐藤純次・三上正男・栗田 進(気研・応用), 田中豊顕(気大): 大気汚染物質の沿岸海上での物理的挙動について(3報)

C会場 中層大気

座長 岩 崎 俊 樹

- C 301. 木田秀次(気研・気候): 大気大循環モデルで再現された成層圏突然昇温
- C 302. 科研費・中層大気大循環モデル開発グループ(九大・理, 東大・理) 研究代表者 宮原三郎(九大・理): 中層大気大循環モデルの予備的積分結果の報告
- C 303. *柴田清孝・千葉 長(気研・気候): 成層圏の数値実験(I)
- C 304. 宮原三郎・*呉 登華(九大・理): 下部熱圏の帯状流への大気太陽潮の効果
- C 305. 牛丸真司・田中 浩(名大・水圏研): プラネ

タリー波の砕波による南半球の極渦の維持とオゾンホール

- C 306. 田中 浩(名大・水圏研): パラメタライズされたオゾン化学反応モデル
- C 307. 神沢 博(極地研): 冬の南極の暖かい成層圏界面
- C 308. *小寺邦彦・山崎孝治(気研・気候): 成層圏循環の長期変動——北半球12月の場合——
- C 309. *中根英昭・笹野泰弘・杉本伸夫・林田佐智子・松井一郎・湊 淳(国立公害研): 成層圏・対流圏オゾン測定用多波長レーザーレーダーその2. 成層圏・中間圏の気温測定
- C 310. 佐藤 薫(京大・理): 対流圏及び下部成層圏における運動量フラックススペクトル(1)手法と事例解析
- C 311. *北村康夫・廣田 勇(京大・理): レーゾンデ観測に基づく下部成層圏小規模擾乱の解析(2)
- C 312. 山中大学(山口大・教育): 内部重力波の場としての惑星流体(第3報)——地球中層大気における普遍的重力波効果の定量化

大会第3日(10月28日) 13時00分~17時00分

A会場 地表面・大気相互作用 II

座長 井 上 君 夫

- A 351. *安田延壽・鈴木紀行(気大), 三上正男・戸矢時義(気研・応用): Penman 法による地中熱フラックスの評価
- A 352. 近藤純正・*三枝信子・佐藤 威(東北大・理): 土壌面蒸発のパラメータ化の研究
- A 353. 三上正男(気研・応用), 安田延壽(気大): 武蔵丘陵森林内の風速分布について
- A 354. 米谷俊彦(岡山大・資生研), Roger H. Shaw(カリフォルニア大・デービス校): 植物群落上の乱流特性について(24)
- A 355. 米谷俊彦(岡山大・資生研), Roger H. Shaw(カリフォルニア大・デービス校): 植物群落上の乱流特性について(25)
- A 356. 近藤純正・渡辺 力(東北大・理): 森林による雨水の捕捉・蒸発
- A 357. 近藤純正・*渡辺 力(東北大・理): 植生地に

おける熱輸送のパラメータ化

- A 358. 近藤純正・*中村 亘・山崎 剛・櫻岡 崇(東北大・理): 下向き大気放射量の推定と広域複雑地形での応用
- A 359. 近藤純正・*山崎 剛(東北大・理): 融雪期の森林の熱収支と融雪量
- A 360. 大内彩子・増田耕一(東大・理): 融雪期前後の地表面熱的狀態の変化
- A 361. *石川信敬・児玉裕二(北大・低温研): 融雪時の気候特性(I)
- 座長 木 村 竜 治
- A 362. 近藤純正・*大草直子(東北大・理): パーセルモデルによる夜間の盆地状地形の熱交換パラメータ化
- A 363. 近藤純正・桑形恒男・*益子直文・住岡昌俊(東北大・理): 複雑地形上での大気-地表面エネルギー交換過程

- A 364. *桑形恒男・近藤純正(東北大・理): 谷風(斜面上昇風)の一層モデル
- A 365. 佐藤 威(東北大・理): 斜面上昇・下降流に及ぼす一般風の影響
- A 366. *木村富士男・高橋俊二(気研・応用): Mountain Drag と Kármán 渦
- A 367. *大淵 濟・樋口敬二・大畑哲夫(名大・水圏研): 大陸の大きさと位置が気候系に与える影響——季節変化を取り入れた熱拡散気候モデルによるシミュレーション——
- B会場 雲物理・積雲対流**
座長 赤 枝 健 治
- B 351. 武田喬男・*服部文彦(名大・水圏研): 東シナ海, 南西諸島海域における冬季下層雲の特徴
- B 352. *小林文明・菊地勝弘・上田 博(北大・理): 季節風時に現れる帯状エコーの併合と分離
- B 353. *米山邦夫・高橋 劭(九大・理), 三浦和彦(東理大): ハワイの温かい雲のエコーライフと風のシア
- B 354. *城岡竜一・上田 博・藤井雅晴・岩波 越(北大・理): ステレオ写真とレーダーから得られた積乱雲の形態の変化
- B 355. *田畑 明・赤枝健治・石原正仁・榊原 均(気研・台風): 成田空港で観測されたガストフロントの構造
- B 356. 水野 量・村上正隆(気研・物理): 冬季日本海で発生する降雪雲の微物理構造
- B 357. *金村直俊・播磨屋敏生・佐藤 節(北大・理): 降雪粒子の粒径分布とレーダー観測
- B 358. *永尾一平(気象協会), 石坂 隆(名大・水圏研): 層雲の形成期における雲の微物理過程と赤外放射の相互作用に関する数値実験
- B 359. 武田喬男・*三隅良平(名大・水圏研): 積乱雲群の3次元数値モデリング(Ⅱ)——長続きした降水セルの構造とふるまい——
- B 360. *原田 寛・高橋 劭(九大・理): メソ擾乱と積雲対流との相互作用——数値実験——
- B 361. *浅野浅春(大阪教育大附高), 山下 晃・中田勝夫(大阪教育大): 多結晶の奇形人工雪について
- B 362. *菊地勝弘・上田 博(北大・理): Double Gohei Twin 型雪結晶について
- B 363. *上田 博・菊地勝弘(北大・理): ノールウェーイ北極圏で観測された奇形雪結晶の結晶構造について
- B 364. *谷口 恭(北大・理), 遠藤辰雄(北大・低温研), 上田 博・菊地勝弘(北大・理): ノールウェーイ北極域における低温型雪結晶の中心核とエアロゾルの測定
- B 365. 佐粧純男(スガ試験機株): 湿雪粒子の含水率と質量の関係について
- B 366. *杉本敦子・樋口敬二(名大・水圏研): 1つの対流雲が降らせる降雪粒子(アラレ)の酸素同位体組成の時間変動
- B 367. 石坂 隆(名大・水圏研): 生成セルに伴う降水粒子の成長について(Ⅱ)
- B 368. *内山政弘・尾崎 裕・福山 力(国立公害研), 中嶋昌宏(日本科学工業), 小島勝彦(佐野屋鉄工): 熱線風速計を利用した霧の粒径分布の測定
- B 369. *安井元昭・竹生政資・福田 寿・遊馬芳雄・高橋 劭(九大・理): 降水粒形ラジオゾンデの試作とテスト観測
- C会場 大気化学**
座長 岩 坂 泰 信
- C 351. 中澤高清(東北大・理): CO₂ 時系列データの新たな解析法
- C 352. *内山政弘(国立公害研), 太田幸雄(北大・工): 土壤粒子(ゼオライト)上の低温での二酸化イオウと二酸化窒素の酸化反応
- C 353. *栗飯原範行・村尾直人・太田幸雄・溝口 勲(北大・工): 大気中の過酸化水素濃度測定法の検討
- C 354. *鶴田治雄・草野 一・渡辺善徳・太田正雄・平野耕一郎(横浜市公害研): 雲粒・雨滴による汚染物質のとりこみ機構と酸化過程(第1報)——係留気球を利用した第一次観測結果——
- C 355. 溝口 勲・太田幸雄・村尾直人・*兼保直樹(北大・工), 北村浩樹(北海道北見保健所): 札幌におけるガス状及び粒子状汚染物質の挙動(1)
- C 356. 溝口 勲・太田幸雄・村尾直人・*秋山雅行(北大・工): 大気中の降下物質の測定(2)
- C 357. 山本 豊・*中川清隆・林 康久(上越教育大), 黒田吉益(信州大・理): 沿岸平野部降雪中の海塩起源化学組成と同位体比の地理的分布に認められた対応関係

- C 358. *井上久幸・松枝秀和・杉村行勇 (気研・地球化学): 筑波, 気象研究所露場において観測された CO₂ と CH₄ の日変化について
- C 359. *高田久美子・村松久史(京大・防災研): 大気中メタン濃度の地上観測結果
- 座長 佐々木 徹
- C 360. 村松久史 (京大・防災研): 成層圏から対流圏へのオゾン流入の経年変化
- C 361. 佐藤公喜 (愛知県公害調査センター, 名大・水圏研): 成層圏オゾンの対流圏における輸送過程の解析
- C 362. *古橋規尊 (富士通 FIP 株): 村尾直人・太田幸雄・溝口 勲 (北大・工): 札幌における春季のオゾン濃度(Ⅲ)——流跡線解析——
- C 363. *村尾直人 (北大・工), 古橋規尊 (富士通 FIP 株), 太田幸雄・溝口 勲 (北大・工): 春期にみられるオゾン濃度と気温の関係について
- C 364. 松原広司・土井元久・上窪哲郎・岡田憲治 (気象庁・観測), *川口貞男・青木周司 (極地研): 赤道域から南極域までの船上オゾン観測 (Ⅱ)——オゾン鉛直分布の緯度変化——
- C 365. 関口理郎 (気象協会): 南極昭和基地上空のオゾン量と太陽黒点
- C 366. 忠鉢 繁 (気研・物理): 南極昭和基地におけるオゾンの変動と成層圏高層風との関係
- C 367. *川平浩二(富山高専), 近藤幸治(高層気象台), 岩坂泰信 (名大・水圏研): 南極域圏界面高度の年々変動——オゾンホールとの関係について——
- C 368. 川平浩二 (富山高専), 廣岡俊彦 (気大): 南極オゾンホールと気温変動の相互関係
- C 369. *近藤幸治 (高層気象台), 岩坂泰信 (名大・水圏研), 川平浩二 (富山高専): 南極成層圏オゾンの変化と気温変化の間にみられる対応
- C 370. *岩坂泰信 (名大・水圏研), 近藤幸治 (高層気象台), 川平浩二 (富山高専): 南極成層圏のオゾン減少と気温変化——エアロゾル形成領域との対応——

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
The 2nd International conference on Atmospheric sciences and Applications to Air Quality	1988年10月3日 ～7日	同国際組織委員会 国内組織委員会	日本学術会議	Vol. 34, No. 9
日本気象学会 昭和63年度秋季大会	昭和63年10月26日 ～28日	日本気象学会	宮城県民会館	Vol. 35, No. 5
第26回粉体に関する討論会	昭和63年10月27日 ～29日	同討論会	石川県社会福祉会館	Vol. 35, No.4
大型レーダー国際学校	昭和63年11月24日 ～28日	京都大学超高層電波研究センター	京都市・烏丸京都ホテル	Vol. 35, No. 4
第2回 WCRP シンポジウム	昭和63年11月28日 ～30日	WCRP 協議会	京都大学楽友会館	
第10回風工学シンポジウム	昭和63年12月1日 ～2日	同運営委員会	東京・中央大学理工学部	Vol. 35, No.4
風に関するシンポジウム	昭和63年12月9日	日本農業気象学会	つくば市・農業環境技術研究所	Vol. 35, No. 6
月例会「レーダー気象」	昭和63年12月20日		気象庁	Vol. 35, No. 7
第3回「大学と科学」公開シンポジウム	昭和64年1月30日 ～2月1日	同組織委員会	経団連ホール	Vol. 35, No. 9